



### 新シリーズ：ユタカナムラのゆかいな仲間 第2回「終戦記念日」

◆2014年は「介護現場の舞台裏」というシリーズで皆様へ毎月お伝えさせていただきました。2015年8月からは、「ユタカナムラのゆかいな仲間」という題名により、ゆたかなビレッジでの人々の「関わり」をテーマにお伝えして参ります。どうぞよろしくお願いいたします。◆



8月15日、70年前戦争が終わった。昨年頃から終戦時の日本をテーマにした映画が多く上映された。現在も戦争終結に向けて起こった事件、事実を元にした映画が公開されている。数々の新証言、研究により歴史も時代と共に変わる。実は、私も身近に戦争体験を聞ける立場にある。介護サービスをご利用されている方のほとんどが戦争を体験している。「終戦の日」に何をしていましたか？と聞いてみたことがある。ある方は「ラジオの前で玉音放送を聞いて泣いた。」またある方は「いつもと同じく過ごしていた。」「何かを感じるとれる心境になかった…」空襲の話、敵機が近所に墜落したこと。家族が戦地で亡くなったこと。お一人お一人に戦争の痛みがあることを知った。一般市民にとって、戦争は日常の中にあり、生活の一部として戦争が存在したことを感じ取れる。戦時中、一人一人に起こった出来事は重く暗く、耐えがたい程辛く厳しいことだ。その思いを多くの方が70年経過しても持ち続けている。戦争、又は事故、病気で家族、友人、知人を亡くすことは残念ながら起きてしまう。私には「よく聞いて受け止める」ことぐらいしかできないが、始まりは「聞くことからだ。」とも思う。介護の場でも「よく聞く」ことが大切だ。ご利用者様の前にしっかりと立ち止まり「何があったのか？」聞く。そこから介護はスタートする。これは地震、災害の被災者への支援としても、同じく言えることかと思う。ゆたかなビレッジでは「聞く姿勢」をもつスタッフを育成したいとも強く思う。今から私もお利用者様、スタッフの話を伺いに行こうと思う。

## ゆたかなビレッジ事業所の話ご紹介

- 「小規模多機能型居宅介護ゆたかなビレッジ 横浜」
  - 「デイサービスゆたかなビレッジ」
  - 「小規模多機能型居宅介護ゆたかなビレッジポートサイド」
- 新しい看板に取り替えました。



管理者：「それぞれの事業所のイメージカラーがあるのよ」  
 スタッフ：「そうですね…デイは青」  
 管理者：「小規模横浜は、赤」  
 スタッフ：「小規模ポートサイドは、オレンジですね。」  
 管理者：「そう、それぞれが色をもっていますよ。」  
 スタッフ：「ステキなデザインですね。」  
 管理者：「そうよね、スカイツリーのエレベーターのデザインもつくられた、デザイナーの高橋正実さんにつかっていただきました。」  
 スタッフ：「そうですね、どうりで未来を感じるわけだ。」  
 管理者：「現在のロゴとは別に、発展するロゴもいただいています。」  
 「それは将来、ゆたかなビレッジが発展することを願ってつくられたロゴです。」  
 管理者：「みんなで未来へ向かってがんばりましょう。」  
 スタッフ：「ケガの無いようにがんばります。」



株式会社ゆたかなビレッジ事務局編集  
 横浜市神奈川区松本町2-19-12山田ビル1F  
 Tel: 594-6222 FAX: 594-6171  
 Email: voyage4@yutakanamura.com